

華

第33号

平成17年12月発行

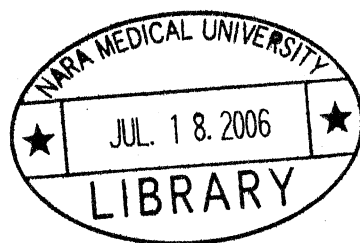
奈良県立医科大学附属病院
看護部教育委員会

平成 13 年度

第 2 部

看護研究発表集録

目 次



第1部 教育講演抄録

1. 医療の方向性と看護部への期待

奈良県立医科大学放射線科前教授 打 田 日出夫 9

2. 看護倫理

滋賀医科大学医学部看護学科教授 岡 部 恵 子 11

3. 看護職員のメンタルケア

奈良県立医科大学看護短期大学部教授 飯 田 順 三 20

4. 看護記録の考え方

奈良県立医科大学看護短期大学部講師 岩 本 淳 子 21

5. 病院におけるリスクマネジメント

株式会社損保ジャパン・リスクマネジメント

リスクマネジメント第二事業部部长 山 本 雅 司 26

6. 年頭にあって

奈良県立医科大学附属病院看護部長 森 本 智磨子 27

7. 家族看護論

奈良県立医科大学看護短期大学部教授 江 上 芳 子 29

第2部 看護研究発表集録

1. 医療用使い捨てゴム手袋に関する意識調査

— A 棟 6 階南病棟泌尿器科入院患者 32 名、看護婦 17 名に

アンケート調査を行って — A 棟 6 階南 石 濱 華 奈 31

2. 介護保険、その他行政サービスに関する情報提供の実際

— B 棟 5 階看護婦 22 名にアンケート調査を実施して —

B 棟 5 階 野 田 由美子 37

3. 6 人床総室のカーテン使用に関する意識調査

— 入院患者 50 名、看護婦 23 名にアンケート調査を実施して —

南 2 階 知地理 和 美 42

4. タッチケアの導入にむけて

— スタッフのタッチケアに対するアンケート調査と

タッチケアの効果についての一考察 — A 棟 4 階北西 吉 川 千 晶 48

5. 双胎妊娠における分娩時母体体重増加量に関する報告

— 妊娠中毒症発症と出生児体重の視点から — A 棟 5 階北 阿 部 由起子 53

6. 南 3 階病棟における患者—看護婦間の信頼度の実態調査

— 結核病棟の特殊性とエリクソンの発達段階による分析 —

南 3 階 竹 内 志 江 58

7. 救急 I C U における面会方法の見直しにむけて

— 夜間電話連絡を実施して —

救命救急センター 江 原 浩 世 64

8. 高齢者の病棟生活に音楽をとりいれて

D 病棟 坂 本 尊 子 68

9. 術後疼痛に対する活動時の温電法用具の工夫

— 肺疾患術後患者 9 名にホットパック固定の片胸帯装着を試みて —

A 棟 6 階北 植 田 未由紀 72

10. 氷枕の工夫を試みて

— アルコール生食パックと食器用洗剤を用いた快適な氷枕の考案 —

B 棟 8 階 桧 原 紀 子 77

11. 眼科手術における特殊体位の苦痛の軽減

— U 字型ビーズ枕を作成し、看護婦による患者体験を通して —

A 棟 7 階北 高 山 和 泉 82

12. 頸椎疾患術後患者のための含嗽器具の工夫

— 5 事例のアンケート結果と看護婦 11 名の表面筋電図の結果より —

B 棟 4 階 山 中 紫帆里 87

13. 移植患児の食事の検討

— 食品の細菌検査と嗜好調査を実施して —

A 棟 4 階南 宮 城 早 苗 92

14. S S I（手術部位創感染）サーベイランスの試み
 — 第2報 サーベイランスの実施に至って —

中央手術部 和 田 智 子 96

15. I C U看護婦の手洗いの実態調査
 — 看護ケア前後と手洗い後の手指汚染の調査を
 スタンプ法を用いて8名に実施して — 集中治療部 岸 本 麻 美 100

16. 事故再発防止に活用できるインシデントレポートの作成
 — 検査室の特徴を生かして —

中央放射線部・中央内視鏡部 宋 友 栄 105

17. 服薬指導に関する看護婦の意識調査
 — 勉強会および、薬剤師との紙面上での情報交換を試みて —

B棟7階 小 西 昌 子 110

18. 術前のインフォームド・コンセントにおける患者の理解度と看護婦の役割の検討
 — 患者18名に実施したアンケート調査を通して —

B棟6階 匹 田 奈津恵 116

19. 喉頭全摘出術を受けた患者の退院後の日常生活について
 — 奈良交声会会員83名に対しアンケート調査を実施した結果より —

A棟7階南 高 野 裕 子 121

20. 血液透析導入者用クリティカルパスの改善

透析部 白 砂 祐美子 127

21. 閉塞性動脈硬化症ステント留置術に対するクリティカルパス導入による退院指導効果
 — クリティカルパス導入前後の退院指導内容の比較・検討を試みて —

放射線病棟 中 西 綾 132

22. 婦人科的開腹手術後の記録一体化クリティカルパス導入の効果と改善点を検討する
 — 使用3ヶ月後のスタッフアンケートと
 記録監査をもとに利点・改善点を検討する — A棟5階南 児 玉 佐 和 138

第3部 その他

1. 平成 13 年度看護部教育委員の役割分担及び委員会開催日時	143
2. 平成 13 年度看護部教育委員会活動計画	144
3. 平成 13 年度看護部教育委員会活動報告	145
4. 平成 13 年度各所属別教育講習会年間平均出席率	146
5. 平成 13 年度看護部教育委員会決算報告	147
6. 平成 13 年度看護部院内教育実施状況	148
7. 平成 13 年度看護研究発表状況	150
8. 平成 13 年度院外研修会・講習会受講者数	151
9. 平成 13 年度各種学会・研究会参加者数	152
10. 奈良県立医科大学附属病院看護部教育委員会推薦委員に関する内規	153
11. 奈良県立医科大学附属病院看護部教育費に関する内規	154
12. 奈良県立医科大学附属病院看護部教育委員会内規	156
13. 投稿規定	158

13. 投 稿 規 定

1. 本誌に投稿する者は、看護部に属していなければなりません。ただし、看護部教育委員会において、特に許可した者はこの限りではありません。
2. 内容に関しては、次の2種類に限定致します。
 - 1) 看護に関する研究的内容のもの。
 - 2) 看護師としての職業に特に関連深い随筆的内容のもの。
3. 投稿者は必ず次の諸条件を守ってください。
 - 1) 看護に関する研究的内容のもの。
 - ① 提出原稿は、掲載論文とする。

A 4 版 縦置き 横置き
40 字× 30 行
10.5 ポイント
15 枚以内（図表・参考文献を含む、表題は別）
原稿は 2～3 枚、図表は 1 図表 1 枚
 - ② 提出について ・原稿 1 枚（図表は、1 図表 1 枚とする）
 ・フロッピー（本文と図表を入力したもの）
 （使用パソコンのソフト名またはワープロの機種名、
 タイトル、所属を明記）
 - ③ 題名、所属、氏名は、本文とは別の用紙を使用し、一番上にもってくること。これは制限枚数には入らない。
 - ④ 提出原稿は、共同研究者名を連記するが、発表者を一番先に明記し○印をつける。
 - ⑤ 原稿用紙の使用法を正しく守ること。
 - ⑥ 文献を正しく明記すること。
 - 2) 随筆的内容のもの。

原稿は、A 4 版縦書き、横書き
1200 字程度

編 集 後 記

「葦」33号を発刊にあたり寄稿していただいた方々に厚くお礼申し上げます。

未熟な私達の「葦」の編集になりましたがご意見などがございましたらどうぞお申し出くださいませ。今後「葦」がますます根強く成長するようお祈りいたします。

平成 17 年 12 月

教育委員

錦 三惠子

下 垣 保 美

大 谷 幹 代

平成 13 年度

葦

編 集 奈良県立医科大学附属病院
看護部教育委員会
発 行 奈良県立医科大学附属病院
住 所 〒 634-8522 奈良県橿原市四条町 840 番地
TEL. 0744 - 22 - 3051
印 刷 吉村印刷社
